



日本コンクリート工学協会編

## コンクリート便覧

書評者 水野高明\*

わが国コンクリート関係の研究者、技術者の学術団体である日本コンクリート工学協会の前身、日本コンクリート会議の創立 10 周年記念事業として企画された『コンクリート便覧』が、このほど出版されるに至った。本書の編集にあたっては、国分委員長、西副委員長を中心に、全国の土木・建築コンクリート界における第一線の方々がほとんど全員参加し、これにセメント化学、材料化学の専門家が加わって、執筆されたものである。その内容は、コンクリート工学の基本より応用に至る全分野における最新の知識、技術があますところなく記載されており、コンクリート技術者たるもの座右に置くべき必携の参考書であり、至上の好伴侶であると信ずる。

昨年、わが国セメント創業 100 周年を迎え、当然コンクリートも明治時代の早い時期から利用されてきたのであるが、コンクリート工学に対する本格的研究が始まり、土木・建築の主要材料としての地位を確保することになったのは、大正 12 年関東大震災以後のようである。特にその目ざましい発展は、第二次世界大戦以降であることは周知のとおり、例えば種々の混和材料の出現、プレストレストコンクリート、プレバッドコンクリート、軽量コンクリート等、枚挙にいとまないが、特に輸送および施工機械の発達、レディミクストコンクリートの一般化、プレキャストコンクリート製品の普及等は、まことに目ざましいものがある。また、わが国では、鉄筋として長い間鋼一本槍であったが、ここ 20 年来異形鉄筋の使用が常識化してきたことも著しい進歩といえよう。本書では、これらの事項につき、それぞれ章を分けて詳述してある。

\* 正会員 工博 九州大学名誉教授

特筆すべきは、コンクリートの補修に対して、1 編が設けられている点である。一般に、コンクリート構造物は、半永久的の耐久性をその長所とするのであるが、近時、外的状況の変化、荷重の増大、過酷な環境条件等に基づいて、欠陥の発生が報ぜられる場合がある。これらについて本書では、この方面に造詣の深い執筆者によって、ひびわれ、劣化の原因、ならびにその対策と補修方法とが示されている。

このほか、特殊なコンクリートの編では、膨張コンクリート、繊維補強コンクリート、合成樹脂の利用、その他の新しい工法について、現状と展望とが詳細に掲げられている。

わが国におけるコンクリート工学の特色は、土木、建築両分野で、それぞれ独自に発達した点で欧米諸国と比べ、まことに奇異な感を抱かせるものがある。土木と建築とでは特殊な部門、例えば、ダム、舗装、あるいは建築意匠、設備等を除けば多くの構造物躯体、基礎等で、コンクリートが本質的に異なるはずはなく同一系列で取り扱うべきものと考えられる。ところが実情は、昭和年代初期に、『土木学会標準示方書』、『建築学会標準仕様書』が別々に制定されて以来、それぞれに伝統を守って、あたかも異種工法のような感じさえ与えることがあり、用語、記号までが不統一で不便がはなはだしかった。日本コンクリート会議の発足もこれらの統一を旨とす意図があったのである。その後相互の連絡が緊密となり、はなはだしい不統一は次第に改善の方向にはあるが、なかなか一朝一夕にはいかぬものと見えて、本書でも随所に苦心の跡が見受けられるけれども、まだ完全とは言い切れない。

しかしながら、本書がこのように両分野を一つにまとめた功績は、大きく評価すべきものである。願わくは、読者各自が、他分野を他山の石として参考に供し、将来渾然一体となって、コンクリート工学の発展に寄与されるための基盤としても、本書の活用を期待するものである。

技報堂刊、A 5 判・1220 ページ、定価 15 000 円、昭和 51 年 3 月 3 日受付。

マーク  
は語る



### ライト工業株式会社

当社の社章は、ライト工業の文字を図

案化したものであります。ライトとは、清く、正しく、明るく、輝かしい会社でありたいとの意をもつもので、この「ライト」の社名を中心に、工業の工を丸く形どり、社内の和と、円に無限の発展への願いを込めております。

昭和 26 年、社内より募集した作品の中から、会社創設より会社の現在を築いた現佐丸芳治会長が選定、制定したもの

です。

社章は社旗、バッジ、保安帽、事務作業服、社有機械、株券をはじめ、各種印刷物に表示し、使用しております。社員は、社章を胸に、頭上に、また社の内外に、絶えずこれを誇りとし、清く、正しく、明るく、すべての調和を図る道標として、輝しい活躍を続けています。

(村田圭弘・記)